



ASAHIGAWA ROTARY CLUB

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2500 No.3 GROUP
Established on October 26th.1934 RI No.3744

国際ロータリー第2500地区 第3分区

旭川ロータリークラブ 会報

第3342回例会 Vol.70 No.8 2018 (平成30)年8月31日 (金)

▼ プログラム

ゲストスピーチ 「地域メディアとしてのケーブルテレビの役割」
旭川ケーブルテレビ株式会社 取締役技術制作部長 齋藤裕一 氏

メニュー

- ・飾りちらし寿司 煮飽・煮穴子・煮海老・錦糸玉子・いくら他
- ・秋の野菜炊き合わせ玉子蒸し ・吸い物 ・コーヒー

会員増強及新クラブ結成推進月間

出席報告

第3341回例会

8月24日

会 員	71名
出 席	41名
出 席 率	57.75%

RIテーマ

会長 バリー・ラシン

“インスピレーションになろう”

9月7日 (金) 第3343回例会プログラム

新入会員卓話 北海道新聞(株)旭川支社長 小林 亨 会員

これからの予定

9月14日 (金) ゲストスピーチ 北海道上川総合振興局 局長 佐藤卓也 氏

9月21日 (金) ゲストスピーチ 旭川大雪観光文化検定公式テキストブック編集委員会委員 峯村伸哉 氏

9月28日 (金) ゲストスピーチ NPO法人 北鎮友の会 高田保幸 氏

8月24日 (金) 第3341回例会の記録

開 会 宣 言 尾田利雄 会場監督

点 鐘 会長 18:30

ロータリーソング斉唱 それでこそロータリー

- 会 長 鎌田嘉範 ●編 集 IT・会報委員会 ●委員長 宗万脩史 ●担 当 丹保明大
- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30 ●事務局 前野房子
- 例会場 星野リゾート OMO7 旭川 〒070-0036 旭川市6条通9丁目 TEL (0166) 29-2777 FAX 24-2114
- 事務局 道北経済センタービル 2F 〒070-0043 旭川市常盤通1丁目 TEL (0166) 25-1551 FAX 23-3398
- ホームページ <http://www.asahigawarc.org/> ●Facebook [facebook.com/asahigawaRC/](https://www.facebook.com/asahigawaRC/)



facebook

会長挨拶：鎌田嘉範

皆様、今晚は。

本日は、クラブの年間行事の中でも、最も重要なガバナー公式訪問例会でございます。それでは早速ですが、私から本日お越しいただいております、ゲストを、ご紹介させていただきます。R I 第2500地区細川吉博ガバナー、淤見政儀ガバナー補佐、曾我浩昌地区副幹事、家内裕典地区副幹事、皆様ようこそお越しくございました。クラブ会員一同、心より歓迎申し上げます。また先程は、会長幹事懇談会に引き続きクラブ協議会で、当クラブの活動計画並びに活動状況に対しまして、適切なご指導、ご助言をいただきました。本当にありがとうございました。

さて、ガバナーの任務の中でも、地区内全クラブを訪問するという公式訪問は体力勝負であり、ガバナーが個々のクラブを知るうえでも最も重要な行事であります。また、クラブ会員にとりましても、ガバナーの人柄を知るうえで素晴らしい機会であります。後ほど、細川ガバナーには記念講演をしていただくことになっておりますので、どうか楽しみにお待ちしておりますと存じます。

また、今回、ガバナー公式訪問に併せて、日本ロータリー100周年を祝う記念の鐘で、本日の例会の点鐘をさせていただきました。点鐘の仕方がもっと上手であれば、素晴らしい響きになったのではないかと、折角お持ちいただきましたのに、少し反省しているところでございます。それでは、細川ガバナー、これからのお時間よろしく願い申し上げます。

ニコニコボックス

細川吉博 様（第2500地区ガバナー）

※細川ガバナーより志をいただきました。

淤見政儀 様（第3分区ガバナー補佐）

細川ガバナーの公式訪問に参加出来まして。

鎌田嘉範 君

細川ガバナー・淤見ガバナー補佐をお迎えることができましたので。

山内和夫 君

家内の誕生日に綺麗なお花を戴き誠にありがとうございました。

上用孝満 君

妻の誕生日に、きれいなお花を頂き、ありがとうございました。

メークアップ

8月17日(金)～8月24日(金)迄 敬称略

〔8月20日(月) 旭川南へ〕

生駒雅彦・富田 宏・西山 仁・助安久雄
青山貴志・小林 亨

〔8月20日(火) 札幌北へ〕

小森林正司郎

〔8月21日(火) 旭川西へ〕

吉田 裕・中野 信・出口絢一・富田 宏
林 泰志・久志卓世・小林 亨

〔8月22日(水) 旭川北へ〕

久志卓世・水上 崇

〔8月23日(木) 旭川東北へ〕

西原一道・新田 守・小森林正司郎

プログラム

ガバナー公式訪問夜間例会



R I 第2500地区細川吉博ガバナー

先ほどの点鐘された鐘、ロータリー100年の鐘ですが、1920年に東京RCが設立され2020年がちょうど100年目に当たります。それを日本のロータリー100年にしようということで、100年を祝う実行委員会そして東京RCがお互いに費用を出し合い、全国34地区にこの鐘を贈られております。これを私たちが各クラブ訪問へ持っていき会長さんに点鐘していただく、そして多分地区大会では私の方で点鐘すると思います。これを今年度と次年度2年間続け、2020年11月の東京でのロータリー研究会でR I 会長が来日の際これでイベントを行うという形ですので、どうぞよろしく願いいたします。9月28日～29日と帯広で地区大会を開催いたします。28日はR I 会長代理の晩餐会、ゴルフ大会など。R I 代理として姫路RCの三木明理事がいらっしゃいます。色々詳しいこと、特に職業奉仕等につきましてのお話が聞けるかと思っております。29日の本大会ではエジプト考古学で有名な吉村作治さんをお呼びして市民

公開講座を開催する予定です。今回は特にイスラムについてのお話をと思っておりますので、ぜひご期待いただければと思います。夜は懇親会を開催いたします。お時間の許す限り少しでも楽しんでいただければありがたいと思っております。

今日はバリーラシン会長が述べています「インスピレーションになろう」の「インスピレーション」についてと、私自身が考える職業奉仕について少しお話させていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

ロータリーの目的ですが、ロータリーは20世紀初頭のシカゴでのこと、治安が悪く、中でも特に商取引が悪かった。取引で騙された者が悪いんだというような感覚があり、人間関係も悪化していく状況だった。それを憂いたポールハリス以下4名は、正しいきちんとした商取引をしたい、その中でメンバーが親睦と友情を深めあう仲間になるクラブを作りたいということからロータリーが誕生しました。そういった意味ではロータリーの最初というのは商取引の仲間だったと言ってもいいと思います。その後、段々奉仕の喜びというものを見出していくロータリアンが多くなってきており、ロータリーはボランティア団体とも言えます。ボランティアという意味では、私たちロータリアンは寛容で、そして、高い道徳的水準を持ち、会員の親睦、社会奉仕、特に子供たちへの社会奉仕、そして世界平和を目指す。そういうものに対してロータリアンが多く時間、労力を注いでいたと言えると思います。ロータリーでは奉仕を英語で“アイサーブ”と言います。つまり私が奉仕する。ロータリアン一人一人の奉仕が基本であり、それが集まってロータリー全体の奉仕活動ということになります。大きな力が集まることで、人々の人生や地域社会、そして世界を変えるものと言えると思います。

そういった中でもロータリーの現実というもの、やはりあります。特にロータリーのメンバー数の問題というのがございます。地方におきましては、少子高齢化・人口減少という状態で、奉仕活動をする人間だけがどんどん増えていくということは現実的に考えられません。多くのクラブにおきましては奉仕活動をやったり、また親睦を深めたりしてメンバーの維持・獲得に努めているというのが現実でございます。ただそうは言ってもやはりメンバー不足に悩むクラブも多い。そうなりますとどうしても奉仕活動の幅、いわゆる人の数が減ることによる問題とか金銭的な問題も出てきますし、親睦の機会の制限にもつながってくる

と思われまます。そしてもう一つ、会員の構成です。よく高齢化と一言で言われますが、私は高齢化が絶対悪いとは全然思っておりません。やはり人生においてもロータリーにおいても経験豊富な深い考えを持っておられる先輩方はとても大切だと思っております。そういう先輩方のお考えを聞きながら、私たちは社会的な意味でもロータリー活動でも進んでいくべきだと思います。ただ、これからのロータリーをつなげていくためには、やはり若い人たちも入れて満遍なく年齢構成していくことが必要であると思っております。R Iでは今女性会員をとのキャンペーンを盛んにしておりますが、それについてはクラブそれぞれの考え方でよろしいのかなと思っております。

これはおそらく古いアンケートなのですが、ロータリアン以外に「ロータリーを知っていますか？」と尋ねると、「聞いたことがない」40%、「名前だけは聞いたことがある」40%、「ある程度知っている」20%というアンケート結果があります。20%の「ある程度知っている」という人も本当にロータリーのことを知っているのかと言ったらいささか疑問が残ります。1番大事なことは新入会員がロータリーのことをよく知らないのではないのかということ。特に2年未満の新入会員の退会率がかなり高いということは、ロータリーに入っただけはみたもののロータリーのことがよくわからない、教えてもらえないという中でロータリーを離れてしまうことは非常に残念なことで、これから学んでいく場を自分たちで失ってしまうことは大変残念なことではないかなと思っております。そういうことも含めて考えられることとして、一つには公共イメージ向上の必要性というのがあります。私たちが日々活動していることをきちんと世間の人々に見てもらい、わかっているという努力が必要ではないかと思っております。公共イメージを向上させることにより、ロータリアンでない人がロータリーの活動を知り、一緒にロータリー活動をしたい、会員にならないまでもロータリーの活動をサポートしたいという仲間が増えるのではないかと思います。それとロータリー情報の提供の必要性。きちんとしたロータリーの情報を、特に会員において皆さんで勉強して知識としてためていく必要があるのではないかと思っております。今年度のスローガンの中で世界を変える行動人“ピープルオブアクション”という言葉がよく出てきております。ロータリーは一人一人の奉仕の力が集まった全体の奉仕です。ですから私たち一人一人がこの世界を変える行動人である、

私たちの行動一つ一つが世界を変えうるということです。一人のロータリアンがアイデアを提案し、それをクラブが、そして地区が、そして世界中のクラブが加わることによって、強力な素晴らしい良いことができます。水面に1滴の水がたれば水の輪ができます。その1滴の水だけならすぐに消え、何も影響を及ぼさないかもしれない。でもそれが多く集まることによって水の輪はいつか波となり、うねりとなる。そのことによって私たちロータリーの奉仕も世界を変えうる大きな力になるのではないかと私は信じております。

ロータリーのプログラムの中にロータリー財団がございます。101年目を迎える財団ですが、健康状態を改善し教育への支援を高め、貧困から救済することを通じて、世界理解・親善・平和を達成できるようにすることというのがロータリー財団の目標です。そしてロータリーにはプログラムがございます。ここにあるように地区補助金を使ったもの、グローバル補助金、ポリオプラス、ロータリー平和センター等がございます。ぜひクラブの皆さんにおかれましては、地区補助金を使っただけの地区内外でのイベント、そしてグローバル補助金を使っただけの海外での色々なプログラムもご検討いただければと思います。

ポリオプラスについてちょっと話させていただきます。これは1979年の3Hプロジェクトでフィリピンの子供600万人への予防接種から始まりました。85年からポリオプラスのプロジェクトが開始され、今まで25億人以上の子供に予防接種が行われ大きな効果が出ております。今現在13人がポリオを発症しております。なぜポリオがなくなるのか？ 世界のどこかで紛争があり、紛争のためにその地域に住む子供たちにポリオのワクチンを届けてあげられない、そのことが大きな原因だと思っております。つまり、ロータリーが目指す世界の平和ということと、このポリオがなくなることは大きく関連しているのではないかと私は思っております。ポリオはウイルスが脊髄の前角細胞に入り込み運動神経に麻痺が起り、身体障害の状態になります。ポリオのプロジェクトが始まってから今までに世界で1700万人の身体障害を予防したと言われております。またポリオにより呼吸筋麻痺に侵されると当然呼吸ができない。つまり死を意味することになります。このポリオプラスにより今まで150万人の子供たちの命を救ったと言われております。あと少しのポリオです。確かに0にはなりませんけれど、それだけ大きな成果を出しているということ

もぜひご理解いただきまして、皆さんの尚一層のご支援、ご協力をいただければありがたいと思っております。

そしてロータリーにはもう一つ青少年奉仕がございます。当初は障害児童から始まりましたが、徐々に青少年活動へ取り組んでおります。皆さんもご存知の通り、ライラ、インターアクト、ローターアクト、青少年交換プログラム等がございます。こちら旭川RCさんではインターアクト、ローターアクトをまた再開いただいております。今年の国際協議会の中でバリーラシンRI会長がローターアクトを倍増しようと計画を出されております。今年で50年のローターアクトですが世界で大体1万のクラブがあり、25万人のローターアクターがいるといわれております。ロータリーの精神を持っている子供たちが、ライラ、インターアクトなどの青少年奉仕を通じて将来、奉仕の心を持ちながらロータリアンになってくれる人もいるかもしれませんし、ロータリアンにならないまでも色々な場面で奉仕を実践していただく、そして色々な形でロータリーを支援していただく子供たちがこれから育っていくことを期待しております。ぜひこれにつきましても皆様のご支援よろしくお願いいたします。

このようにロータリーの問題等もでございます。私たちはロータリーの直面する課題に対して勇気と希望と創造性を持って正面から立ち向かっていく情熱というものを持たなくてははいけない。もうダメだからと言って諦めてしまうのではなく、何事にも情熱を持って取り組んでいきましょう。その中で私たち自身に前向きな変化が生まれていく、それこそがバリーラシンRI会長が言っている“インスピレーション”だと私は思っております。私たちが何事にも取り組んでいく情熱、それ自体がインスピレーションだと考えてもいいのではないのでしょうか。

「ビー・ザ・インスピレーション」前向きな情熱を持って行動できればと思います。その中で私は地区の方針として、「行動するロータリー」「つながるロータリー」「ロータリーの未来を考えよう」とし、今年度は8つのテーマを出させていただきました。1つにはロータリー賞を各クラブが目指すということ。ぜひMyRotaryに登録していただき、そこから色々な情報を、特にロータリー賞については3つの充填分野についてそれぞれ出させていただきます。ロータリー賞をとるためには、クラブの60%以上のメンバーの登録が前提になっておりますので、多くの皆さんに登録しやすい形

を作りたいと思います。そして、地区内新クラブの設立。人がいないのにクラブが出来るのか？私はローターアクターを支援していただいているクラブに、ローターアクターOBで衛星クラブのような形でもいいので作れないだろうかということをお話させていただいております。そして最後に地区事務所の在り方ということがございます。地区事務所とガバナー事務所の業務内容、立ち位置の精査をきちんとしたうえで、地区の皆様これ以上の経費負担をなるべくかけないようにすることを根本におき、地区戦略計画委員会で中期的なものを話し合っております。今年度中には何らかの形でこの方向性につきましてきちんと示していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私の職業奉仕について少しお話をさせていただきたいと思います。私は整形外科の医者をやっております。大学卒業後、北大の整形外科に入局させていただきました。大学で外来を担当する中でわかったことですが、患者さんもお家族の方も前泊したり後泊したり、大変な思いをして札幌の大学までいらっしゃるとい方がほとんどでございます。やはり帯広でも病気をしたら昔でしたら札幌に行くか、せいぜい釧路の労災病院に行くかという状況でありました。そんな状況をずっと見てきて思ったのは、患者さんがどこかに行かなくてはいけない医療ではなくて、できる医者と呼んでくるような医療はできないだろうか、ということでした。私は38歳のときに帯広で100ベッドの病院を無謀にも作ってしまい、北大とか旭川医大の教授、助教授に来てもらって色々な手術をやっておりました。そうしている内に、病院の入院期間が過ぎているが、もう少しリハビリをやりたい人に対して、どうしようかという話になりました。私は老人保健施設を幕別町に150床くらいと帯広市内に100床を作りました。ちょうど帯広市立病院の計画が頓挫し、そのベッドが保健所からおまえらやれという話で病院は196床になったのですが、それでも終の棲家にはならない訳なのです。家に帰れない高齢者の方がお一人で住み怪我して、骨はついたよと言ってもなかなか家に帰れない、そういう人たちをどうしようかと思ったときに、やはり終の棲家、いわゆる特別養護老人ホームを作らなくてはと思い、社会福祉法人を作らして、小規模地域密着型29床の特別養護老人ホームを帯広市内に5ヶ所作り、後はグループホームで運営させていただいております。もちろん一番最初はロータリアンでも何でもありませんの

で、何でこんなこと自分でやってきたんだろうと、今一度振り返ってみますと、患者さんやご家族の皆さんに喜んでもらえると、自分にとってみても大変嬉しい。人喜んでくれることが自分の喜びだと思えるのです。相手の喜び、相手の幸せが、自分の喜び、自分の幸せと考えられるかということが奉仕の理念なのではと思います。ロータリーの綱領の中にも「ロータリーの目的は意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励しこれを育むことにある」とあります。奉仕の理念というのは相手の喜びを自分の喜びとする、そのことによって意義ある事業となる。お互いにとって有益な事業であると言えます。ポールハリスが100何年前に目指していたことが今でも綱領の中に脈々と生きています。職業倫理というものをもし考えるのであれば、法令を守るといふこと、これは当然のことです。それにプラスして私たち自身の道徳がそこにあるからこそ、それは倫理と言えらると思っております。私たちはこの倫理をきちんと職業の中に生かしていく必要があるのではないかと思っております。そういった意味で四つのテストというのは、私たちのその職業倫理をきちんと導いてもらえる一つの大きなテキストです。職業奉仕とは職業サービスを念頭に相手の立場に立った職業活動を行い、職業人としてのより高い倫理の向上に努め、世の中に広めていくこと。これこそが私は職業奉仕だと思っております。

私たちロータリーは渡辺好政元R I理事が作られました。「超我の奉仕がありもっともよく奉仕するもの、もっとも多く報いられる」というテーマ、クラブ奉仕の中で親睦と助け合いがあって、ロータリーの綱領・四つのテストを大きな栄養とするのであれば、職業奉仕の理念をもってその栄養分を吸い上げることによってこそ、私たちの国際奉仕があり、財団があり、社会奉仕があり、そして青少年奉仕があると思っております。私たち自身がきちんと職業奉仕を大切にすること。このことがロータリーとして集まる仲間の1番根本のところではないかなと思っております。こちら旭川クラブにおかれましては濱口委員長がいらっしゃいます。ぜひまた色々な形でこのことを議論していただければありがたいと思っております。皆さんにおかれましてはこの2500地区においてもっとも歴史のあるクラブでございます。今後ぜひこの地区のリーダーとして私たちを色々な形でリードしていただきたいと思います。私もガバナーとしてこれから残りのクラブの中でも教え伝えていければ幸いです。

点鐘 会長 19:00



鎌田嘉範会長による挨拶

司会担当の水上崇親陸活動委員

山内和夫会員による乾杯の挨拶



バナー交換



米山記念奨学会からの感謝状を
細川ガバナーから小滝会員へ贈呈



新田守ソングリーダーの指揮に合わせて「手に手つないで」



嶋岡邦雄会員による中締め挨拶